

## ◆国語科◆

### 全校で取り組んできたこと（H30年度12月調査の分析・検討を受けて）

- ・「話すこと・聞くこと」においては話す内容を文字化することによって、内容の吟味をさせる。
- ・問題文を最後まで見落とさずに読み、線を引いたり○で囲んだりすることで、答える内容を的確に捉える習慣をつけさせる。
- ・週末課題として新聞のコラム「有明抄」の視写に取り組みせ、感想や要約などの「書く活動」などによって、「思考力」「読解力」「表現力」の向上につなげる。
- ・宿題と毎時間の漢字テスト・小テストを連動させ、言語事項の定着を図る。

### 4月データを分析して気付いた成果と課題

#### 《第9学年について》

成 果	課 題
<p><b>【国語科全体を通して】</b></p> <p>○全体の正答率は、県正答率を4ポイント、全国正答率を3.2ポイント上回った。また領域別でも全領域で正答率は県も全国も上回っている。</p> <p>○7年次からの課題であった「読むこと」についても正答率が74.4%となり改善が見られる。また、同じく課題であった「書くこと」の正答率が全国や県を7ポイントも上回る、89.7%で、要約や鑑賞文等の「書く活動」を多く取り入れた授業展開や週末課題の「有明抄」視写が功を奏していると考えられる。</p> <p>○無答率が極端に低いことと「感心・意欲・態度」の数値82.1%が全国や県より7ポイント高いことから、記述式の問題を含め、何とか考えて答えを書こうとする意欲がうかがえる。</p> <p><b>【設問別の結果から】</b></p> <p>○「掲載された短歌の感想」や「話し合いの流れを踏まえた自分の考え」「意見文に挿入する具体例」を書く問題は、記述式にもかかわらず、いずれも正答率が全国や県を大きく上回っていた。今後も、生徒が意欲的に取り組める言語活動を考え、授業を行っていききたい。</p>	<p><b>【国語科全体を通して】</b></p> <p>●全ての領域において全国や県の正答率を上回ることができていたが、「話すこと・聞くこと」は僅差であった。「読むこと」や「書くこと」に重点を置くと、グループ活動に割く時間が少なくなってしまう。主体的・対話的な学びという点からも、交流活動は必要である。「話すこと・聞くこと」「読むこと」と「書くこと」をうまく連動させながら、バランスよく向上できるよう指導を工夫していきたい。</p> <p>●「読むこと」は向上が見られたが、今後も文章を一人でじっくり読み込み、考える場面とグループで話し合い、考えを深めたり広げたりする場面を有効に使いながら、更に「読む」力をつけたい。</p> <p><b>【設問別の結果から】</b></p> <p>●全国の正答率をわずかに下回る問題はいずれも選択式の問題である。選択肢があっても、「答えの根拠は本文中にある」ということを意識させ、本文と選択肢を丁寧に読み比べさせるようにしていく。</p> <p>●国語の力は本人のもつ言語感覚や語彙力に支えられている。コラムの視写や読書、授業の中であえて意味調べを行うなど、正しい文章・美しい文章や語句に触れる機会を増やし、言語感覚を磨き語彙力を高めていきたい。</p>

## ◆数学科◆

### 全校で取り組んできたこと（H30年度12月調査の分析・検討を受けて）

- ・自分の考えを書き表し、友だちに説明するコミュニケーション活動を随時設定し、活用する力と考えを伝える力を身につけさせる。
- ・日々の授業で、小テストを実施し、自己評価をさせながら、数式の計算技能や知識習得・定着の向上を図る。
- ・学習に対する良い習慣を確立させるとともに、理解が十分ではない生徒には個別指導の機会をできるだけ設定し、生徒の意欲を高める。

### 4月データを分析して気付いた成果と課題

#### 《第9学年について》

成 果	課 題
<p>[数学科全体を通して]</p> <p>○全体の平均正答率 62.8%で、全国より 2.2 ポイント、県より 5 ポイント高かった。</p> <p>領域的には図形領域の 76.9%が高く、全国より 4.5 ポイント高かったが、もっとも全国比で高かったのは、前年度 12 月の県学習状況調査で正答率が最も低く、課題であった資料の活用で、6.5 ポイント高かった。</p> <p>[設問別の結果から]</p> <p>○評価の観点で見ると、数学的な技能が高く、その平均正答率は全国より、7.9 ポイント高かった。</p> <p>○問題形式で見ると、記述式の平均正答率が 56.4%で、全国より 9.3 ポイント高く、校内研究で取り組んでいる「かく活動」の成果ではないかと考えられる。</p>	<p>[数学科全体を通して]</p> <p>●図形領域が高かったのに対して、関数領域は、平均正答率が 35.9%で、全国より 4.9 ポイント低かった。関数については、苦手意識がある生徒が多いことも明らかで、事象を関数的に解釈することが課題である。</p> <p>[設問別の結果から]</p> <p>●技能の基盤となる、数量や図形などについての知識・理解については、平均正答率が 69.2%で、県平均より高くはあったが、全国より 2.1 ポイント低かった。特に、正の数・負の数の四則計算の結果の考察が正確にできていない点が明らかになった。</p> <p>●もっとも正答率が低く、かつ無解答率が 15.4%と高かった問題は、関数の記述式の問題で、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかを問う問題であった。</p>

## ◆英語科◆

### 全校で取り組んできたこと（H30年度12月調査の分析・検討を受けて）

- ・コミュニケーション活動を多く設定することを通して、「聞く力」と「話す力」の育成をはかる。
- ・目的や場面、状況に応じた英語表現を意識させることを通して、より実践的なコミュニケーション能力を育てる。

### 4月データを分析して気付いた成果と課題

#### 《第9学年について》

成 果	課 題
<p><b>【英語科全体を通して】</b></p> <p>○全体の正答率は、全国の30.8%に対して18%と12.8ポイント低かった。領域別で見ると「聞くこと」「読むこと」で佐賀県の正答率を上回ったが、「書くこと」では佐賀県の正答率を下回った。</p> <p><b>【設問別の結果から】</b></p> <p>○ALTとの連携によりコミュニケーション場面を多く取り入れた学習を行ってきた結果、「聞くこと」「読むこと」の力は育ってきている。</p> <p>○基礎的・基本的な単語や文法を直接用いて表現する力は育っていると考えられる。反面、基礎的・基本的な単語や文法を応用しないと内容を理解できないようなコミュニケーションに関しては、習熟が足りないと考えられる。</p>	<p><b>【英語科全体を通して】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●小学部における外国語活動との連続性を意識しながらの授業作りがより一層必要だと考える。また、英語の楽しさに触れさせる指導や音声指導を小中連携で展開しているイングリッシュ・フェスティバルを充実させていくことで、生徒の話す機会を多く設定する必要がある。</li> <li>●コミュニケーション活動の中で英語表現の習得に取り組みながら、表現力の定着と書くことに対する抵抗感をなくしていくために「かく活動」の内容を検討する必要がある。</li> </ul> <p><b>【設問別の結果から】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●単元学習を通して身につけさせたい知識や技能を明確化し、単元学習のゴールからその単元における学習内容や学習方法を組み立てていくような授業作りを行っていく。</li> <li>●単語力、文章力を向上させるために反復、継続して書かせる必要がある。今まで以上にTTの連携を図り、単語・文章のチェックを強化していきたい。</li> <li>●基礎的・基本的な単語や文法の確実な習得のために自学ノートやBノートの取り組みを徹底させる。</li> </ul>

## ◆意識◆

### 全校で取り組んできたこと（H30年度12月調査の分析・検討を受けて）

- ・家庭教育指針に基づいた学年に応じた家庭学習時間の確保。
- ・授業と連動した学習課題を効果的に出す。
- ・生徒の読書量を増やす取組の強化。
- ・インターネットやスマートフォンの使用について各家庭で約束事を決め、家庭学習時間を確保させる。
- ・SNSの利用について、生徒や保護者への啓発活動。

### 4月データを分析して気付いた成果と課題

#### 《第9学年について》

成 果	課 題
<p>○家の人と学校での出来事についてよく対話がなされている。</p> <p>(問)家の人(兄弟姉妹を除く)と学校でのできごとについて話をしますか。</p> <p>「している」42.2%(県)→65.8%(本校)</p> <p>「どちらかといえば、している」31.5%(県)→30.0%(本校)</p> <p>○授業内容やテストの間違えところを、生徒が理解するまで根気強く教えることができている。</p> <p>(問)先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。</p> <p>「当てはまる」38.3%(県)→81.6%(本校)</p> <p>「どちらかといえば、当てはまる」47.3%(県)→13.2%(本校)</p> <p>○ものごとを最後までやり遂げて、うれしいと思う生徒の割合が高い傾向にある。</p> <p>「当てはまる」75.5%(県)→94.7%(本校)</p> <p>「どちらかといえば当てはまる。」18.8%(県)→2.%(本校)</p> <p>○家で、計画的に学習する生徒が増えてきている。</p> <p>(問)家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。</p> <p>「している」13.9%(県)→23.7%(本校)</p> <p>「どちらかといえばしている。」36.3%(県)→42.1%(本校)</p> <p>○地域の行事に積極的に参加している生徒の割合が高い傾向にある。</p>	<p>●将来の夢や目標をもっている生徒やや低い傾向にある。</p> <p>(問)将来の夢や目標をもっていますか。</p> <p>「当てはまる」43.7%(県)→39.5%(本校)</p> <p>「どちらかといえばあてはまる。」26.4%(県)→23.7%(本校)</p> <p>●平日に読書をする時間が短い傾向にある。</p> <p>(問)学校の授業時間に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。</p> <p>「1時間以上」13.0%(県)→8.9%(本校)</p>

(問)今住んでいる地域の行事に参加している。

「当てはまる」 26.3%(県)→44.7%(本校)

「どちらかといえば、当てはまる」

27.4%(県)→34.2%(本校)

**○地域や社会貢献について関心をもっている生徒が多い。**

(問)地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがありますか。

「当てはまる」 11.4%(県)→21.1%(本校)

「どちらかといえば、当てはまる」

28.9%(県)→44.7%(本校)

**○授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている生徒の割合が高い。**

(問)地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがありますか。

「当てはまる」 24.6%(県)→50.0%(本校)

「どちらかといえば、当てはまる」

49.9%(県)→42.1%(本校)